

職人の世界を一挙紹介!!



下町文化

第 199 号

平成10年10月15日

発行

江東区教育委員会
生涯学習部生涯学習課

文化財保護強調月間

伝統工芸展開催!

文化財保護強調月間もいよいよ後半戦に突入です。今後の事業は、18日（日）に民俗芸能公開、29日（木）から文化の日の11月3日（火）まで伝統工芸展が開催されます（ただし2日は休）。これらは、江東区の伝統的な「わざ」で、いずれも江戸時代から受け継がれてきたものです。

江戸の伝統的な「わざ」に興味をお持ちの方は、ぜひ一度会場の方にお立ち寄りください。

伝統工芸展

10/29(水)～11/3(火)

伝統工芸展は、江戸時代以来続く職人さんの伝統的な「わざ」を公開する場です。会場には、区内在住の職人さんの作品が展示され、「本物」の良さを知ることができます。開催以来、すでに17回目を数えますが、毎年多くの入場者をお迎えすることができました。

本年も森下文化センターが会場になります。区内在住で区の文化財（工芸技術）に認定されている41人と団体4件の計45件の職人さんが製作した作品の展示だけでなく、職人さんの実演や職人の技の体験コーナー

も設けております。特に、体験コーナーは人気があり、多くの方が申し込まれます。

日頃は、自宅の仕事場でお仕事を続けている方がほとんどですので、なかなか一般の方と接する機会はないものと思われれます。しかし、親方から教えを受け、数十年にもわたって黙々と磨かれてきた技は、まさに本物といえるものです。製品ひとつひとつの細工部分などを見てみると、その細かさや丁寧さがお分かりいただけると思います。そして、その「わざ」とは、数百年もの長い年月、人から人へと伝えられてきた伝統的な職人技に裏付けられたものにほかなりません。

会場説明は4面をご覧ください。

江東歴史紀行

一橋慶喜の上洛と

千田・永代新田

一橋慶喜の上洛

慶喜は水戸藩主徳川斉昭の七男として天保8年(1837)に生まれ、弘化4年(1847)御三卿の一つ一橋家を相続しました。のちに徳川幕府最後の将軍となる人物です。

安政5年(1858)将軍家定の継嗣問題が起こると、慶喜はその候補に挙げられ、福井藩主松平慶永らの一橋派が形成されました。これに対して、大老井伊直弼を中心に紀州藩主の徳川慶福(のち十四代将軍家茂)を推す勢力を南紀派といます。

同年6月、井伊直弼が朝廷の勅許を得ずに日米修好通商条約に調印すると、斉永・慶永・慶喜らは登城して井伊直弼を面会し、そのため慶喜は隠居、謹慎の処分を受けました。しかし井伊は万延元年(1860)の桜田門外の変でたおれ、文久2年(1862)7月一橋家を再相続した慶喜は、将軍後見職となり幕政の指導に当たりました。

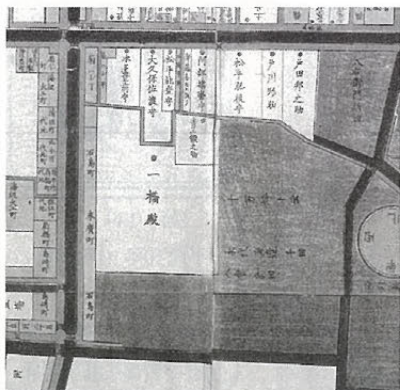
当時は京都を中心として尊王攘夷運動が盛んとなった時代です。その運動を後押ししたのが長州藩でした。慶喜は将軍家茂を助け、公武合体運動の成果をあげるため文久2年12月に上洛します。翌年

5月、江戸に戻りますが、8月に尊攘派が京都から一掃(八・一八政変)されると、11月再び上洛、以後、幕府権力強化のために尽力します。

一橋家領の千田・永代新田

一橋家は八代将軍吉宗の四男宗尹を祖とし、独立した大名ではなく、徳川家の一門として江戸城一橋門内の屋形に居住していました。

所領は幕府領のなかから10万石を支給され、幕末期の武蔵国には約1万3千石の領知がありました。区内の千田新田(現千田・千石1〜3丁目)・永代新田(石島付近)・海辺新田(海辺・扇橋付近)も一橋家領(いずれも幕府領との入会)に含ま



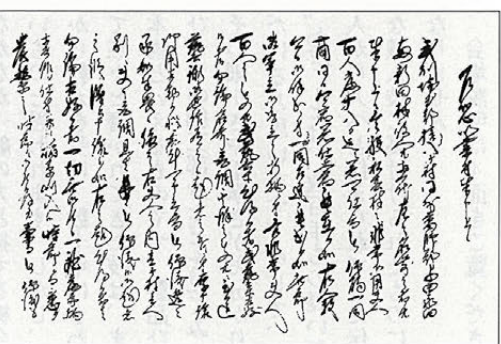
れており、抱屋敷が置かれています。この一帯は「十万坪」と呼ばれた地域で、村々は新田開発によって成立しました。これから村々の概要を、天保3年(1832)の「武蔵国埼玉郡・葛飾郡・高麗郡村々様子大概書」(一橋徳川家文書 茨城県立歴史館蔵)から示すと次のとおりです。

村名	村高単位は石	家数	人数
千田新田	137・531	24	141
永代新田	82・731	4	24
海辺新田	23・240	—	—

この数字は、幕府領との入会であったため、各村全体の規模をあらわしたものではありませんが(そのため海辺新田は家数無しとなっています)、決して生産の高い村々とはいえません。むしろ江戸近郊に位置し、一橋家が抱屋敷を置いていたことに地味な意味があると考えられます。

軍立御用人足(陣夫)の徴発

さて、話を慶喜の上洛に戻しましょう。江戸時代の村々は領主から「役」といわれるさまざまな負担を強いられました。人足役もその一つであり、慶喜の上洛にあたっては、江戸詰めや上京御供人足が領知の村々から徴発されました。文久3年(1863)9月18日には、武州埼玉郡18か村と千田・永代両新田から徴発された人足100人が江戸に到着しています。ところが、一橋家では単なる人足ではなく、「武芸等心得候者」や「武芸等相好候者」の名前取り調べを命じ、慶喜に従って上京させ、軍隊で使役する陣夫の徴発を行



一橋家軍立御用人足の取立て免除願(部分)
(篠崎家文書 蓮田市史編さん係提供)

おうとしたのです。このような命令が、村々にとって大きな負担になることはいうまでもありません。

同年21日、武州埼玉郡18か村惣代3名と葛飾郡千田・永代両新田の名主代理岩次郎は、農繁期や該当者がいないことなどを理由に、陣夫役の免除願いを差し出しました。24日にはその延期願いを差し出していきますから、免除されなかったことがわかります。ただし、この延期願いには埼玉郡18か村惣代の名前だけで岩次郎の記名はなく、千田・永代両新田のみ免除されたと考えられます(「蓮田市史」近世資料編Ⅱ)。幕末期の混沌とした政治状況のもとで、一橋慶喜の上洛と地域の人びとは無縁ではなかったのです。

幕末動乱の時代。この時代を地域史の観点からとらえなおしてみたいものです。

(文化財専門員 小泉雅弘)

江東区歴史セミナー

門前仲町・森下探訪

楽しいお話しをうかがいながら、門前仲町から森下へと文化財を巡る歴史散歩です。深川村の発祥や行楽地としての素顔など、歴史のなかで深川が果たした役割を探ります。

日時 10月31日(土) 1時～3時30分
集合 富岡八幡宮

講師 久染健夫(深川江戸資料館学芸員)
定員 20人 参加費 無料

申込 往復はがきで10月23日(金)必着
〒135-8383 江東区東陽4-11-28

生涯学習課文化財係まで

第11回木彫工芸展

日本伝統の技 江戸木彫刻

木彫刻は、歴史的にみた場合、仏像や社寺建築の木彫装飾物を中心に興りました。木彫刻の職人さんが丹精こめて造り上げた作品が勢ぞろいし、見る人にうるおいと優雅さを伝えます。木をきざみ、木のこころを生み出す彫刻美を是非ご覧ください。

期日 10月21日(水)～25日(日)

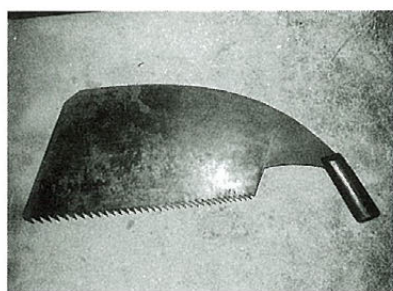
会場 深川江戸資料館レクホール

時間 午前9時30分～午後5時

主催 協同組合江戸木彫刻

後援 江東区 江東区中小企業公社

ここにも歴史があった



上の写真のノコギリは木挽き職人が使う大鋸の一つです。全長は78.5cm、歯渡りは52.7cmです。

大鋸は、室町時代中ころから使われ始め、天井板や壁面材などを作るのに便利な道具でした。同じころ出現した台鉋とともに、その後の設計・木工事の技術を飛躍的に発展させ、日本建築には欠かせない道具となります。桃山時代には1人で挽く前挽

芭蕉記念館から

芭蕉記念館俳句会

日時 11月17日(火) 午後1時30分

会場 2階研修室

内容 兼題 冬季雑詠3句

席題なし

対象 区内在住・在勤の方50人

費用 無料。句報の送付をご希望の方は80円切手貼付宛先明記の封筒をお持ち下さい。

締切 11月16日(月)

申込 窓口または電話で

ジュニア俳句教室

日時 11月14日(土) 午前9時30分

鋸が現れ、2人で挽くのにくらべて場所や経費の節約が可能になり、その後の主流となっていきます。

挽き方には、「立て返し」というて立てかけた木材に向かって一人で挽く方法や、大正時代に登場した「すくい挽き」という長尺材を挽くのに便利な方法などがあります。

ご紹介した大鋸は、俗にクジラ鋸と呼ばれた前挽鋸です。石島9の藤代勝海さんから寄贈いただきました。

より11時30分(集合9時20分)

会場 2階研修室

内容 俳句をつくってみよう

対象 区内在住の小学生30人(先着順)

費用 無料(筆記用具持参)

締切 開催日の前日

申込 窓口または電話で

◇芭蕉記念館

江東区常盤1-6-3

☎(3631) 1448

伝統の技 実演公開

毎月第一・第三日曜日に工匠番

館(森下文化センター内)で行って

います職人さんの今後の実演日程は

次のとおりです。

11月15日 仕舞袴製作 杉浦 武雄

*時間は午後1時～3時

皆さんのご意見を

お寄せください

前号でご案内したとおり『下町文化』は次号で第200号を迎えます。そこで『下町文化』へのご要望・感想を募集します。どのような内容でも結構ですので、10月30日(金)までにご意見をお寄せください。
生涯学習課文化財係まで。

伝統工芸展会場案内

展示・解説

これまで区文化財に認定された職人さんの仕事道具や作品を展示します。その後、お亡くなりになられた方の作品なども、可能なかぎり展示いたします。道具などは、職種によってまったく違いますし、ご自分に合った道具を自ら造られるという方も多いようです。



展示作品は、漆塗・刺繍・木彫刻・桶・提灯・染織・指物・投網など日常生活でも比較的馴染み深いものや、カットガラス（江戸切子）・三味線駒（象牙細工）・相撲の化粧廻しや呼出しさんの裁着袴など、さまざまです。そこには、木場や相撲のメッカ両国に近い地域的特色を示すものも多くあります。

そのようなことも考えながらご覧いただくと、いっそう興味深いものになるでしょう。

実演公開

展示だけではなく、期間中に職人さんの実演も行われます。



10月29日・30日・31日・11月1日・3日（文化の日）の5日間、職人さんの仕事の様子を会場で見ることが出来ます。ただし、時間帯によって職種が異なりますので、日程表をご参照ください。

職人の技の体験コーナー

職人さんにアドバイスを受けながら、実際に仕事を体験することが出来ます。伝統的な技術に興味を持っている方も少なくないようですが、仕事を

体験できるチャンスはほとんどないものと思われれます。職人さんのご協力により4年ほど前から実現したコーナーです。時間はわずかですが、本当に弟子入りしたような気分が味わえると思います。

当日、開始前に館内アナウンスをします。受付でお申し込みください（日程表参照）。

伝統工芸展実演日程表

日時	午前10時～12時	午後1時～3時	午後3時～5時
29 (木)	←	あめ細工 青木 喜	→
30 (金)	←	あめ細工 青木 喜	→
31 (土)	裁着袴製作 富永 皓 漆 工 近藤 良市 提灯製作 杉田 礼二	庖丁製作 吉實庖丁店 提灯製作 洪沢 昭男 金工（鍛金） 佐生 明義	刺繍（紋章） 天野 一政 漆 工 前田 仁
1 (日)	足袋製作 箕輪庄太郎 江戸切子 須田 富雄 漆 芸 大岩 仲治	木工（模楷・椽） 鈴木 延担 江戸切子 須田 富雄 木工（指物） 山田 一彦	木工（指物） 山田 一彦 三味線駒製作 前田 賢次 木工（彫刻） 渡邊美壽雄
3 (火)	木工（彫刻） 岸本 忠雄 染織（更紗染） 更 浜 簾製作 豊田 勇	仕舞袴製作 杉浦 武雄 染織（紋章上絵） 石合 信也 染織（更紗染） 更 浜	

■は「わざ」の体験ができます。体験される方は教材費は実費となりますので、ご了承下さい。

期間中、伝統工芸保存会による作品販売がおこなわれます。日頃職人さんの作品を購入したいと思っている方は、じっくりと作品を見て購入できるチャンスです。販売に立ち会える方も少なくないでしょう。いろいろな話が聞けるかもしれませんヨ！

チャリティーバザール